

防災塾 実施報告書

烏山総合支所地域振興課
上北沢まちづくりセンター

- (1) 実施日 令和7年1月26日（日曜日）午前10時～正午
- (2) 場所 上北沢まちづくりセンター 地下活動フロア
- (3) 参加人数 一般参加者：26名 講師：2名 区職員：7名 計35名
- (4) テーマ
「ペットと防災～災害からペットを守るために～」
- (5) 実施内容
 - ・第1部 講義 「ペット同行避難と防災の備え」
講師：ペット防災せたがやネットワーク 浜田 亜友里 氏
 - ・第2部 グループワーク
テーマ 「災害時におけるペットの備えについて」
日頃からペット防災に関する日頃からの備えについて、参加者同士で意見交換していただき、ペットの防災対策における見識を深めていただく。
- (6) 成果物
 - ・当日配布資料 別紙1及び別紙2のとおり

・当日写真

第1部講義の様子



第2部グループワークの様子



グループワーク発表の様子



講評の様子



各班のグループワークシート

災害に備えて皆さんが心がけていることは何ですか？

冬

- 庭で群雑する犬のテント
- 犬の尿の処理用品をまとめてバックで用意しておく
- 防寒の洋服
- 足のお手入れ (例) シューズのカット
- 迷子札をこけておく

中

- ICチップ
- 大甲 医療道具 及び薬
- 自宅以外の近所、トイレ、避難所

春

- 合うペットフードを探して、少しずつ慣らしておく
- フード確保 (1ヶ月分くらい)
- しつけを繰り返す
- 近所の犬友を作る
- 飼主のネットワーク作り?
- あすなろの先を作る

トイレシート 7月の用意

ケガしたらどうする?

トイレ 外でしかしない

動物病院 心臓の病犬 薬

夏 7月 熱中症 心臓

ストレスを受けやすく すぐ吐く

ストレスで 下痢

うち 土に埋められる?

火台で トイレシート 燃やせる?

トイレ

災害に備えて皆さんが心がけていることは何ですか？

- ハーネスを準備しておく
- 人に慣れさせる
- 防災用品と併せて

- 基本的なしつけ (避難場所) 避難場所
- ペットのフード (避難場所) 避難場所
- しつけ (例) 散歩のしつけ
- ペットの尿の処理用品

- 飼主以外の人がいる場所で飼って慣らす
- ペットフードはいろいろな種類を慣らしておく
- トイレのしつけを繰り返す
- ペット用に「おなか」を慣らす

災害に備えて皆さんが心がけていることは何ですか？

備えていること

夜はドアを閉めて
 同じ部屋に後で用いている
 Food in case
 水、食料の備え
 ケージの生活に慣れている
 ケージの生活に慣れている

猫×3 犬×1

これから備えること (不安要素)

<備蓄>	<ペットトレーニング>	<人間が対応し>
ペット用 備蓄食料 の準備がまだ	シートでの トイレトレーニング	避難先での 避難先での 不安要素が 多い
水を用意して いる	ペット用トイレ シート	避難先での 不安要素が 多い
Pet用 トイレ シート	ケージ トレーニング	避難先での 不安要素が 多い
	お ハネス ブラシレ ニング (抜毛)	避難先での 不安要素が 多い

災害に備えて皆さんが心がけていることは何ですか？

ペット避難の
運送方法
(リムーブ)

トイレ
おはいせ
の訓練

ペットの
トイレ
トレーニング

場所
指定地域

ペットの避難
先を指定する
場所

におい

しつけ

音に対して
吠える

ごはん

お飯を
1週間分
用意し毎日
使う

同行避難して
ペットの避難
先を指定する
場所

しつけ

犬に対して
吠える

犬も
とて
さびれる

犬の
ストレス

(7) アンケート 別紙3「防災塾アンケート用紙(とりまとめ)」のとおり

防災塾アンケート用紙(とりまとめ)

日付 令和7年1月26日
地区 上北沢

1-1)ご自身について(性別)

	①男性	②女性	③未記入等
数	10	14	1

1-2)ご自身について(年齢)

	10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
数	1	1	3	4	7	6	2	1

1-3)ご自身について(職業)

	①会社員	②公務員	③団体職員	④自営業	⑤パート・アルバイト	⑥専業主婦(主夫)	⑦無職	⑧その他
数	10	0	0	4	2	5	1	1

2 今まで参加した防災塾の開催年度について

	①今回が初めて	②昨年度	③2年以上前
数	20	2	2

3 防災塾に参加して、地域防災について十分な意見交換や議論ができたと思いますか。

	①十分できている	②ややできている	③どちらとも言えない	④あまりできていない	⑤まったくできていない
数	5	13	3	2	1

4 設問3の選択肢を選んだ理由をご記入ください。

・話し合いが足りない
・新しい発見があった
・まだ知らないことがある
・グループワークで意見交換ができた
・自分では気づかない視点があった
・ペットを飼っている人の話が聞けて良かった
・ペットのいない種に理解してもらうのにも必要
・他の方や専門家の意見を伺えて非常に良かった
・未だペットを飼い始めたばかりだから
・積極的に意見を出し合ったが、日頃からの準備が不十分だと思った
・今回参加して足りないと感じた
・不明なことが多すぎて
・お互いの不安要素を交換したり、新たな視点で準備する物がわかった

5 自分の地区の「地区防災計画(避難所のペット対策)」をご存じでしたか。

	①知っていた	②知らなかった(今回参加したことで知った)
数	3	22

6 「防災塾」に参加して、「地区防災計画(避難所のペット対策)」の内容を理解できましたか。

	①参加前から理解していた	②参加したことで理解できた	③理解できなかった
数	2	23	

7 設問6の選択肢を選んだ理由をご記入ください。

・初めてなので初耳情報が多かった
・飼い主としてできる事を考えて、用意していこうと思った
・少しずつ実感してきました
・災害が怖いのでペットと逃げられるようにするためにどうするのか知れたかった
・知らないことがあった
・必要な物がたくさんある事を知りました
・避難所でペットは外でまぼ野ざらしというのは考えていなかった
・避難時に必要な基本的なペットのための防災用品等を知り、避難所のペット対策の内容が理解できた。
・しつけや用意すべき用品、避難所のペットの状況を知ることができた。
・同行と同伴避難の事を知り、行程でのペットスペースについても知ることができた。

8 防災塾に参加して学んだことや気づいたこと

	数		数
①自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった。	6	⑤災害時の地域の課題が、地区住民の視点から具体化された。	11
②自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。	3	⑥地区のいろんな方のアイデアが集まって、自分たちでできる災害対策が講じられた。	11
③災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた。	13	⑦参加した地域のいろんな方と関係性が作られた。	7
④地域防災の考え方(住民の目線から課題と対策を検討する)を学ぶことができた。	15		

9 今後の希望する「防災塾」の進め方について

	数		数
①今までと同じく、ワークショップ形式のグループで議論	11	⑥行政の防災担当者により防災対策の実態に関する詳しい説明	9
②課題や対策のテーマ別に関わる関係者だけがそれぞれ集まって具体的に議論	5	⑦防災専門の先生や被災対応経験者を招いた防災の工夫や事例に関する防災講演	15
③よりコアな少数のメンバーが集まって地区全体の課題と対策をより具体的に議論	4	⑧地域の課題と対策について、いろんな地区住民から広く意見がもらえる会合	8
④防災まちあるきや安否確認訓練などの体を動かす体験	6		
⑤課題と対策のアイデアに関する他地区の防災活動の事例紹介	13	⑨その他()	

10 「地区防災計画」の今後の見直し・検証において、重点的に実施したいと思うこと(設問として聞いていない)

	数		数
①地域の課題に対し、防災まちあるきを通じた危険箇所や地域資源の発見と整理		④検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	
②初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成		⑤計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	
③検討した対策の実現に向け、協力関係者への声かけと対策方法に関する話し合い		⑥避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるかを動かした検証(実践)	

<その他>

11 「防災塾」に継続して参加したいと思いますか。(設問として聞いていない)

	①継続して参加したい	②都合がつけば参加したい	③どちらとも言えない	④あまり参加したくない	⑤まったく参加したくない
数					

12 「防災塾」のご感想や「災害対策や地区防災計画」に関するご意見・ご要望など、自由にご記入ください。

・知らないことが多く、今回参加することで足りない点がある事がしました。避難所の実情から実際に役立つ物があれば具体的に教えてほしい。ペット防災も含んだ避難訓練があれば参加してみたい
・ペット防災の具体的な事例がいろいろ知りたい。
・冊子以外でアプリの活用等身近に感じられる、実用できるペット防災を身につける講習などあれば、老若男女がかかわれるようになれば良いと思いました。
・将軍池公園を各としたペット班の立ち上げ。そのペット班と避難所運営のつながり。
・自身の防災意識を改める良い機会となりました。具体例の頁次も大変参考になりました。
・グループワークでいろいろな意見が聞けて良かった。あらかじめ準備をしておかなくてよかった。
・散歩で動物が集まる公園で講演会だけでもするの良いいのでは？避難所でペットの存在をペットを飼っていない人も理解することも必要
・講師の話はとても分かりやすかった。マイクロチップ、ワクチン、感染、ペットの高齢化に伴う薬の話など獣医師の方からも為になる話が聞けました。
・日常からできる事をもっとすべきだと思いました。避難所の現状なども知ることができました。実際に近所の避難訓練にも参加し知っておく必要があると感じた。
・同行避難ができるようにしたい。ペットにも人にも優しい世の中に
・このような会をまた開いて頂き、より具体的な防災や避難について知りたいと思いました。
・ワークショップが苦手な人もいますので、気軽に参加できる講演会がたくさん開かれると嬉しいです。猫と犬と他のペットそれぞれ特色があるので別々に勉強できることが出来たらよいと思います。
・また参加させていただきたいです。

防災塾 実施報告書

烏山総合支所地域振興課
上祖師谷まちづくりセンター

1 実施日

令和6年12月7日（土曜日）午前10時～12時

2 場所

粕谷区民センター 2階多目的室

3 参加人数

合計37人（内訳）参加者26人、講師等2人、区職員9人

<参加団体>

上祖師谷自治会、祖師谷橋自治会、成城通りパークウエスト自治会、粕谷会、粕谷2丁目アパート自治会、避難所運営委員会、上祖師谷地区民生委員・児童委員協議会、成城消防団第三分団、成城消防団第七分団、赤十字奉仕団上祖師谷分団、粕谷商誠会、成城警察署、上祖師谷ぱる児童館、粕谷児童館、上祖師谷あんしんすこやかセンター、社会福祉協議会上祖師谷地区事務局

4 テーマ

避難者と協働して避難所運営を進めていくために

5 実施内容

- (1) 開会挨拶 上祖師谷まちづくりセンター所長 小林 隆広
・ 令和6年度避難所運営訓練の実績報告
（上祖師谷まちづくりセンター
まちづくり・防災担当係長 山田 誠）
- (2) 講演 「避難者と協働して避難所運営を進めていくために」
講師：せたがや防災NPOアクション代表 宮崎 猛志 氏
・ 講演及び質疑応答
- (3) 意見交換（テーマ）
「避難所運営を円滑に維持するためのマネジメントを考える」
・ 意見交換
・ 発表
・ 講師からのコメント
- (4) 閉会挨拶 烏山総合支所地域振興課長 大谷 昇

6 成果物

- (1) 記録写真
- (2) 講演資料
- (3) アンケート集計表

【講演の様子】



【意見交換】



【各班の発表】



6年度 防災塾

『避難者と協働して避難所運営を進めていくために』

せたがや防災NPOアクション

©2024 せたがや防災NPOアクション 無断転載禁止

せたがや防災NPOアクション

せたがや防災NPOアクション

区内のNPO団体が、平時より顔の見える関係を築くとともに、発災時においてNPO団体同士の連携が図られるよう、ネットワーク化することを目的に、2014年5月に発足しました。ひっ迫する首都直下地震、激甚化する台風に備え、地域のみなさまとともに、私たちのまちを、災害に強い世田谷をめざし、一緒に活動する仲間を増やしていきたいと考えています。

- 活動テーマごとの分科会の実施－運営
- 全体会の企画・立案・実施
- 訓練（図上演習、情報連絡訓練）の実施
- 区内・区外の支援団体との関係づくり
- 防災塾、イベント・訓練等、地域の方との連携関係づくり
- 4者（区、社協、ボラ協、NPO）による連携体制への協力

能登半島地震の紹介 ～写真で見る被災状況～

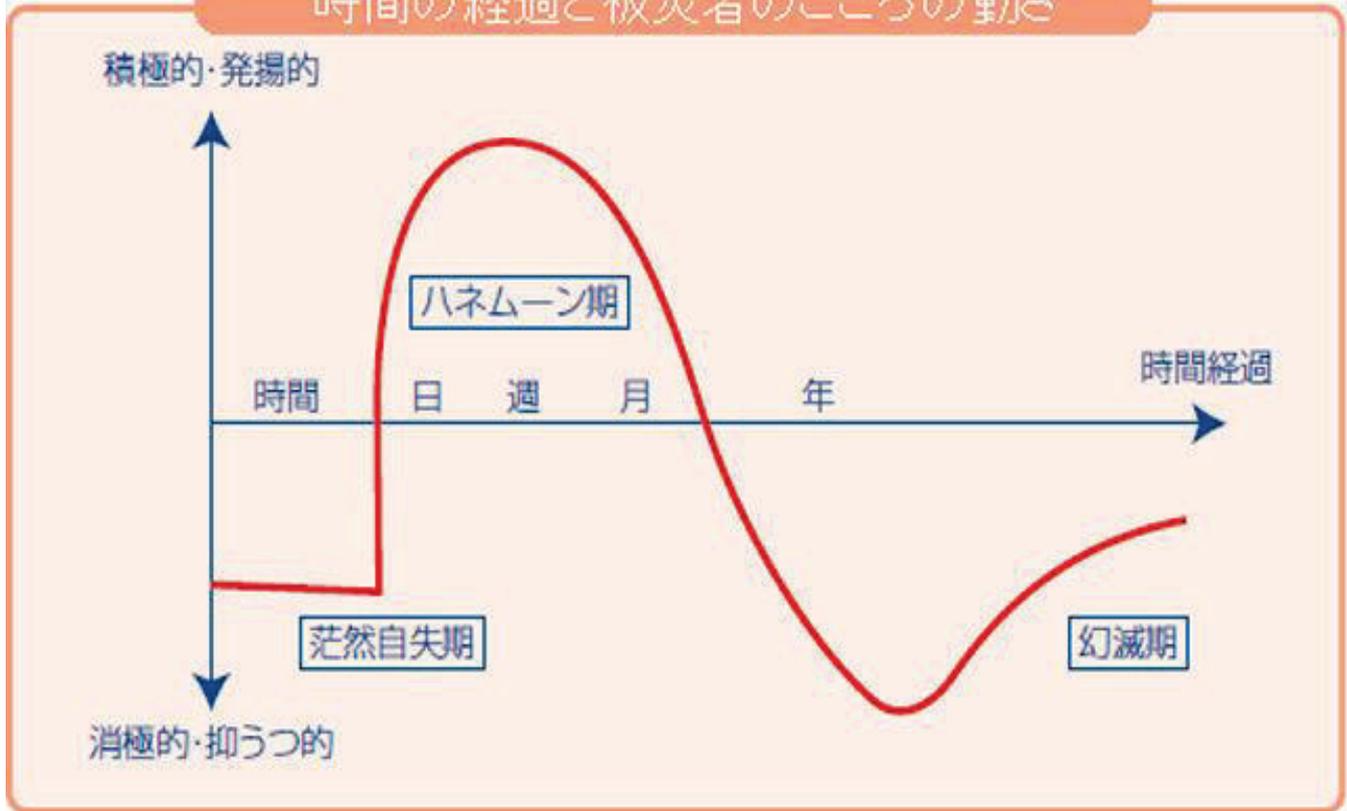
©2024 せたがや防災NPOアクション 無断転載禁止

避難所運営の流れ

せたがや防災NPOアクション

時期	状況	動き	主体・支援体制・学校の動き
発災直後 初動期 48時間程	避難行動支援	救出救助、初期消火、一時受入	← 地域住民
	開設準備	開錠、受け入れ準備、ゾーニング	← 避難所運営協議会
	運営体制づくり	運営委員の設置トイレ、ゴミ、物資、 掲示等、担当の割り振り、会議体、 スタッフシフト	※ここから、教職員の参画 かかわりの濃淡はあれど、学校 再開までの長距離伴走
48時間 展開期 ↓ 安定期 それ以降	避難所の運営	行政との連絡体制、物資確保・配布、 情報発信、衛生管理、暑さ寒さ対策 など生活環境の改善	← 区、出張所と連携
	ニーズへの対応	在宅避難者の支援、要配慮者支援、 女性、子供の支援 ペット対応、防犯	← 災害VC、サテライト設置 ※自治組織に徐々に移行 ← ライフラインの確保・復旧 ※学校再開準備開始
	避難所の安定化	ルールの確立、自主運営組織に移 行、居場所づくり、相談体制づくり、 こころのケア、福祉サポート	← 罹災証明等生活再建に向けた手続き ※学校再開へ準備本格化
	避難所の統廃合	仮住まいへの移行、避難所の引越	← 長期避難所、仮設、住宅再建、(小口) 貸付制度、生活再建制度各種等
	閉鎖に向けて	通常の学校運営	

時間の経過と被災者のこころの動き



©2024 せたがや防災NPOアクション 無断転載禁止

避難行動と避難生活開始期＝開設準備～24h せたがや防災NPOアクション

【マネージャー中心、有志に声掛けもするが、基本は少人数で行う】

- ・危険個所、立ち入り進入禁止個所の設定
- ・設備の確認
- ・トイレの確認→汚物置き場
 - マンホールトイレの設置
- ・ゾーニング →避難場所（居住スペース）、本部など
 - 土足禁止場所の確認
- ・受付の設置 →名簿作成と自治運営の承諾チェック
 - 運営のお手伝いを行うことので了承
（できない事情がある場合、その理由とともに記入を依頼
＝移送候補の可能性大）
 - 看板の設置

※避難所運営マニュアル、ファーストアクションカード参照

(例)

避難されてきたみなさまへ

新型コロナウイルスに対する感染予防とクラスター対策の一環で、
〇〇〇学校避難所では、火事で焼け出された、家屋が倒壊したなどやむを得ない事情がある方のみ、受け入れいたします。
自宅が無事な方は全員「在宅避難」生活をお願いいたします。

〇〇〇学校避難所運営委員会
委員長 世田谷 太郎

(例)

避難されてきたみなさまへ

この避難所は「〇〇〇学校避難所委員会による「自治で運営」されます。

避難所のルールを順守いただき、避難場所の移動や、運営支援の協力といった、「避難生活」をともにするコミュニティーの一員として、避難所運営にご協力ください。

〇〇〇学校避難所運営委員会
委員長 世田谷 太郎

(例)

帰宅困難者、駅前滞留者のみなさま

〇〇学校避難所は、地域住民に向けて開設された避難所です。

帰宅困難者向け避難所は「××高校、△△高校」です。

また、休憩や各種支援情報は「□□区民センター」で提供されます。その他、◇◇や▽▽が支援ステーションとなっています。

受付で地図をお渡しします。ご協力をお願いいたします。

〇〇〇学校避難所運営委員会
委員長 世田谷 太郎

せたがや防災NPOアクション 無断転載禁止

避難生活支援期 ～72h～1週間

せたがや防災NPOアクション

【事前に決めておけることは準備していたほうがスムーズだが現場対応多し】

・区割りと移動 →避難者の増加、退所など入れ替わりが多いため。

《避難者で担当係や班を編成》 →3日ローテ、曜日ローテ等

→複数人で、一人にならない工夫

《やり方をわかっているマネージャーが一回り伴走》 →一定期間で移行
～係の例～

・清掃、衛生環境の保持 →手すり、ドアノブの拭き掃除、消毒液等補充
→生活水の確保次第

・ごみ出し →置き場所、減量化

・情報の発信 →掲示場所、掲示形態、回覧板方式など

・物資の配布 →保管場所、配布形態、欲しいものリスト作成

・健康維持 →体操、調理・給食、配膳など

※子どもたちを巻き込んで呼び水にする手も。



冬は特にご注意ください！

ノロウイルスによる**食中毒**

食中毒は夏だけではなく、**ウイルスによる食中毒が冬に多発しています!!!**

◆患者数で第1位 ◆冬場に多い ◆大規模な食中毒になりやすい

◆他の食中毒発生数(年間) ◆ノロウイルス食中毒の発生頻度の割合(年間) ◆食中毒1件あたりのおおきさ

その他 1345人	ノロウイルス 58% 12,464人	その他の月 11月 11%	11~2月 68% 23月	ノロウイルス 36.9人	その他 13.5人
--------------	--------------------------	---------------------	---------------------	-----------------	--------------

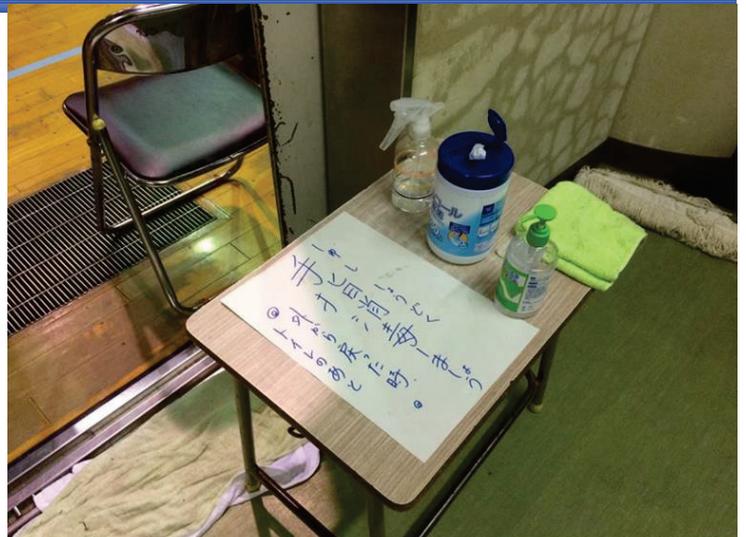
※出典: 食中毒統計(平成21~25年の平均、観測数及び割合、1件あたりのおおきさに基づく)

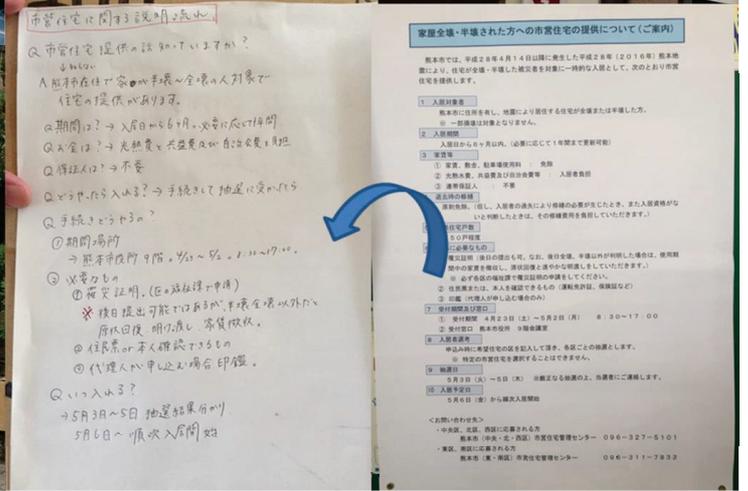
ノロウイルスによる食中毒予防のポイント

調理する人の健康管理	作業前などの手洗い	調理器具の消毒
<ul style="list-style-type: none"> 胃腸から感染しないように食べものや家族の健康状態に注意する。 症状があるときは、食品を直接扱う作業をしない。 症状があるときに、すぐに責任者に報告する仕組みをつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 洗うタイミングは、 <ul style="list-style-type: none"> トイレに行ったあと 調理施設に入る前 料理の盛り付けの前 次の調理作業に入る前 汚れの残りやすいところを洗いぬぐう。 指先、指の間、爪の間 指輪の裏側 手首 	<p>消毒剤</p> <ul style="list-style-type: none"> 洗剤などで十分に洗浄し、塩素濃度200ppmの次亜塩素酸ナトリウムで消毒する。 ※塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)は、金属製の調理器具には使えない。 ※塩素系漂白剤(次亜塩素酸ナトリウム)は、漂白剤として使われる。 ※漂白剤などで十分に洗浄し、煮沸で殺菌する方法も有効です。

詳しい情報は、厚生労働省ホームページ「ノロウイルスに関するQ&A」をご覧ください。
http://www.mhlw.go.jp/sty/shingi/2014/01/14_0000204_1.html

厚生労働省





【プレイヤーからプレイングマネージャーに、リーダーたちの休息も】

- ・ローテーション、シフト表の作成 →日勤、夜勤等2交代、3交代制など
→運営の決定、交渉権者が在駐
- ・本部に出入りできるようにする →腕章の活用
→個人情報取り扱いの念書にサイン

《運営を円滑に回すコツ》

- 運営側がリラックスできる場所が必須
- 避難者がリラックスできる場所も必須
- 子供たちが勉強や遊びができる場所

《多様な避難者を受け入れるため》

- 相談窓口の設置
- まちせん、あんすことの連携（移送の検討）

©2024 せたがや防災NPOアクション 無断転載禁止





運営のコツは“受援力”

【支援を受けるのにも準備と努力が必要“受援力”を高めよう！】

- ・保健、医療関係・・・医療救護所、巡回、薬、健康チェック、リラクゼーション
- ・相談関係・・・心のケア、法律制度等生活再建支援相談
- ・物資、食支援・・・ほしいものリスト、炊き出し場所、調理室の解放
- ・マンパワー支援・・・サテライト（災害VC）、運営補助業務全般
在宅避難者支援（物資、情報のお届け&安否確認）
※腕章などの身分を証明できる何かがほしい。
- ・そのほか・・・とにかくあらゆる支援の手が存在している。
課題は、つなげられるかどうかだけ

☆災害によってマイナスになったあらゆる“日常の何か”が課題となる。その解決に“受援力”を高め、“支援者の手を借りる”ことこそ、避難所運営、避難生活の質確保につながる。

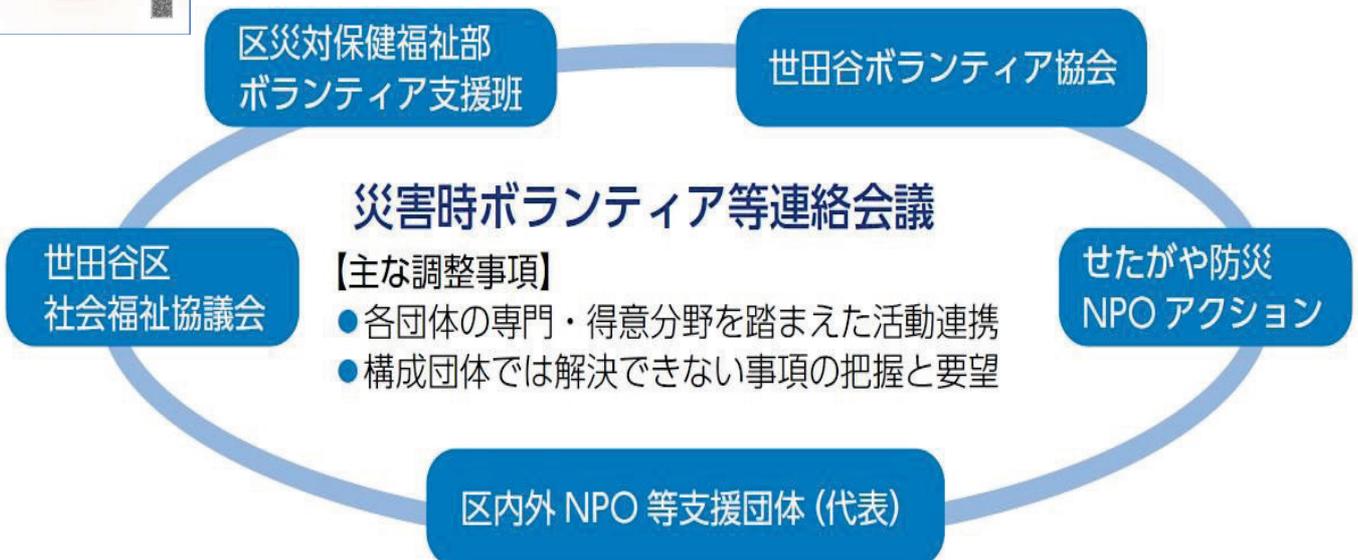


災害時ボランティア等連絡会議（四者連携）



「世田谷区地域防災計画」に、災害時のボランティア活動、NPO・市民団体等の支援団体間で、支援の抜け・漏れ・偏りをなくし、円滑に支援活動が行えるよう、情報の共有や連絡調整等を行う場を設置する。

【四者連携（図）】



避難所・被災者支援拠点の運営にかかわる方々、外部支援を頼ってください。

「誰が、何に困っているか」という個人情報はいりません。
「どんなことに困っている人が、何人くらい、いつまでにどれだけ増え・減りそうか」というニーズ情報をください。

世田谷が被災したときの外部支援団体の窓口は
「せたがや防災NPOアクション」が担います。

拠点は、世田谷線山下駅隣接の「たまでんカフェ山下」
電話番号：03-5426-3737 FAX：03-5426-3738
(平時はFAX専用、発災時は電話回線としても使用)

©2024 せたがや防災NPOアクション 無断転載禁止

グループワーク

せたがや防災NPOアクション

【テーマ】

『避難所運営を円滑に持続するためのマネジメントを考える』

【実施方法】 (30分)

- ・避難所運営を円滑に持続していくためには、どのように運営をマネジメントしていくことが必要(効果的)であるか、各避難所単位で考えられる課題と対応策を、生活ルール等を参考に各班で話し合う。

※避難所運営をしていて、どんな「課題」が出てきそうか？

【発表】 (15分)

- ・代表者を決めて、全体共有として発表していただきます。

3. 上祖師谷地区の防災力を高めるために実施したいと思うことに、すべて○をつけてください。

		集計数
①	防災まちあるきを通じた危険個所や地域資源の発見と整理	10
②	初期消火や要配慮者支援等の地域の課題別の防災マップ作成	7
③	検討した対策の実現に向け、協力関係者への声かけと対策方法に関する話し合い	10
④	検討した対策の実現に向け、地区全体の具体的なルールづくりや担当決め	9
⑤	計画に記載している課題と対策に加え、より多くの住民視点からの課題と対策の追加	6
⑥	避難訓練、消火訓練等、災害時の対策が実現できるか体を動かした検証（実践）	8

上記の他、実施したいこと

1	救命講習会、すべての地域の人々が救命の知識と技術をもてば災害に強い地域になる
2	災害が起こらないことを願うばかりですが、やはり回数を重ねることが大事だと思います
3	災害発生時の被害想定が必要ではないか？
4	
5	

4. 上祖師谷地区の防災に関して、課題と思うことがあれば、ご記入ください。

・行政ではなく、自治で運営されていて、そのルールを守っていただく必要があることなど、もっと自前に周知しておかないと混乱につながる。

・避難所運営委員の高齢化の問題 通常時における一般住宅の災害に対する意識が低い
↓
災害時にはプレーヤーとして活動してくれるか不安

・上祖師谷地域の住宅は耐震基準以降の建物が多く全倒壊は少ないと思われる。在宅避難者が多くなる可能性があり、食糧等を避難所に取りに行く人が多数増える。避難所運営担当者が把握する。

・震災が一番不安である。震災時に被害を最小限にするための方法等を調査、検討する必要がある。

・避難所運営委員をどのように増やすか、人数が足りていない。

・もっと多くの人々が登録して複数人数で対応できれば。

・各班で、今の3倍くらいの人数が集まれば。

・防災組織への若い人の参加（多くが高齢者）

5. 「防災塾」のご感想やご意見・ご要望など、自由にご記入ください。

- ・防災について考え、地域の方とつながるので、毎回参加したい。
- ・大変勉強になり、今後も参加して災害時の対応従事者として行う。
- ・本日はありがとうございました。宮崎先生のお話の中で「避難所でご近所さんがまわりについて愚痴等話しにくい」「ココは自分の場所だと話す人がいる」等、細かい住民目線での話が聞けてとても参考になりました。
- ・能登の復旧復興が未だに進んでいない状況であるが、都内では予算消化的な道路工事等が行われている。これらの予算、施工業者を被災地へ援助する様な法的整備が必要なのではないか。
- ・ここで議論された課題や解決策を地域に展開し周知するのかがよく分からない。
- ・避難所運営をみては気づけなかった事について気づく機会になった。まだまだ気づいていないものがあると思われる。
- ・運営委員でない方からの質問に答えることで答えられない部分は不足部分であるので、運営側とそうでない方との質問会があってもよい。

防災塾 実施報告書

烏山総合支所地域振興課

烏山 まちづくりセンター

(1) 実施日 令和7年1月18日(土曜日) 午前10時～午後2時

(2) 場所 烏山区民センター

(3) 参加人数 延べ1,300人

(4) テーマ

「在宅避難」を大テーマに、防災に関心がない区民にイベント参加を通して、防災を考え、有事に備えるためのきっかけを創出する。また、事業効果を拡大することを目的に、烏山総合支所地域振興課と共催で実施する。

(5) 実施内容

①ホール、ホワイエイイベント

- ・世田谷サービス公社村上氏による防災講演
- ・チャリティーコンサート
- ・チャリティーチアリーダー披露
- ・お楽しみ抽選会
- ・防災相談コーナー

②広場イベント

- ・被災地復興物産展
- ・防災グッズ展示・紹介
- ・防災ビュッフェ
- ・地区防災の取組紹介(町会・自治会避難所運営活動紹介 等)
- ・区の取組み紹介(避難行動要支援者、ペット防災、外国人向け防災等)

(6) 成果物

①写真





③講演資料

防災講演

「もしも」は来る。在宅での避難生活
教えます

講師 (株)世田谷サービス公社 地域防災支援センター
所長 村上 剛一 (防災士)

1. 日本における地震の状況

- 今年は、関東大震災から102年目になります
- 102年で1000人以上の犠牲者が生じた大地震は何回起きたでしょうか？
- 今後30年以内に首都直下型地震の起きる確率は？

2. 在宅避難の勧めと備えについて

- 避難所に行くことだけが「避難」ではありません
- 在宅避難、自主避難、縁故避難なども考えましょう
- 住み慣れた自宅での「在宅避難」をお勧めします
- その場合、備蓄はどれくらいすればいいのでしょうか？

3. ローリングストックってなに？

- 専用の防災食品や防災用品ですべてを備える必要はありません
- 多めに食料品や生活用品を備え、使ったら買い足しましょう
- そうすれば、いつも一定量の備蓄ができます
- 普段食べなれたもの、使いなれたものが安心できます

4. トイレの準備は大切です

- 災害時は、停電、断水、排水管等の破損が起きる場合があります
- もし、トイレが流せなくなったら・・・
- あなたは、1日にトイレに何回行きますか？
- 非常用携帯トイレを準備しましょう

5. 今だから出来る準備があります

- 災害が起きてからでは何も手に入りません
- 今のうちに備えることで、自分、家族、お友達を助けるかも知れません
- もしもは必ず起こります
- 今日をきっかけに防災について考えてみましょう

KARASUYAMA



防災フェス in 烏山 冬の巻

おいしい! 楽しい! そして安心を!

令和7年1月18日(土) 午前10時～午後2時 雨天時一部縮小

烏山区民センター(南烏山6-2-19) 千歳烏山駅から徒歩1分

※駐車場はありませんので電車、バスをご利用ください。
※自転車でお越しの方は、近隣の有料駐車場をご利用ください。
(イベント専用の駐車場はございません)

お問い合わせ [せたがやコール](https://www.setagayacolor.com) ☎ TEL:03-5432-3333 FAX:03-5432-3100

主催: 烏山総合352所地域振興課

詳細は裏面をご確認ください

楽しいイベント盛りだくさん!

ホール内イベント

午前の部

●10:00～10:15

オープニングセレモニー

●10:20～10:50

防災講演 「『もしも』は来る。在宅での避難生活教えます」

(株)世田谷サービス公社 地域防災支援センター所長(防災士) 村上陽一氏



●11:00～11:15

被災地応援演技

日本女子体育大学チアリーディング部TOMBOYS



TOMBOYS

●11:20～11:50

抽選会 (講演会で配られるクイズ全問正解者の方に、抽選でイベント限定からびん防災グッズプレゼント)

午後の部

●12:10～12:40

防災講演 「『もしも』は来る。在宅での避難生活教えます」

(株)世田谷サービス公社 地域防災支援センター所長(防災士) 村上陽一氏

●12:50～13:20

被災地応援コンサート

桐朋学園大学学生によるヴァイオリンとピアノのアフタヌーンコンサート

出演者:植田 美桜子(ヴァイオリン)、笠原 優花(ヴァイオリン)、三好 史奈(ピアノ)

●13:25～13:55

抽選会 (講演会で配られるクイズ全問正解者の方に、抽選でイベント限定からびん防災グッズプレゼント)

抽選会

各回350名限定

ランタン



ブランケット



各抽選会でランタン10個、
ブランケット30枚プレゼント!

※外れた方にも防災グッズの
プレゼントあり

広場内イベント

●石川県、福島県、熊本県による被災地復興物産展

●防災ビュッフェ(防災食の試食)

●キッチンカー

▶Coconut kitchen(ココナッツアイスほか)

▶茶屋 らくう【Chaya LaQoo】(クレープほか)

▶アロハステーション(ロコモコほか)

▶こはく堂(カレーライスほか)

●防災グッズ展示・紹介

●烏山地区での避難所運営活動紹介

●防災に関する行政情報コーナー



石川県



熊本県

からびんも
遊びに行くヨ!



※キッチンカー イメージ図

その他(ホワイエ)

●今日から始める在宅避難相談・ボランティア紹介コーナー
(世田谷ボランティア協会)

未回答含まず	年齢	
10歳未満	33	16.2%
10代	8	3.9%
20代	3	1.5%
30代	16	7.8%
40代	39	19.1%
50代	22	10.8%
60代	35	17.2%
70代	41	20.1%
80代以上	7	3.4%
計	204	100.0%

未回答含まず	イベントを知ったきっかけ	
チラシ	79	40.5%
ポスター	50	25.6%
区のおしらせ	20	10.3%
区の広報版	0	0.0%
その他	46	23.6%
計	195	100.0%

未回答含まず	ホールイベントの内容	
とてもおもしろい	66	41.0%
おもしろい	94	58.4%
おもしろくない	1	0.6%
計	161	100.0%

未回答含まず	お住まい地域	
八幡山	5	2.4%
上北沢	2	1.0%
北烏山	74	35.9%
南烏山	38	18.4%
粕谷	8	3.9%
給田	23	11.2%
上祖師谷	20	9.7%
成城	0	0.0%
その他	36	17.5%
計	206	100.0%

未回答含まず	ホールイベントの時間	
長い	7	4.2%
ちょうどよい	150	90.9%
短い	8	4.8%
計	165	100.0%

複数回答可	イベントに参加して学んだこと
自分の地域でどのような災害が起こりうるかわかった	38
自分の地域でどの程度の被害が発生するかわかった。	23
災害時に自らがとるべき避難行動を理解することができた	77
地域防災の考え方（住民の目線から課題と対策を検討する）を学ぶことができた	44
災害時に備えて備蓄が必要であることがわかった	113
災害時には、行政機能が麻ひするので、自分で守る自助、自分たちで守る共助が必要だとわかった	61